



SAP Ariba 

機能の概要

Risk Exposure API

Lisa Gangewere, SAP Ariba
一般提供予定: 2021 年 5 月

CONFIDENTIAL

機能の概要

説明: Risk Exposure API

導入の難易度 ● ハイタッチ
対象エリア ● グローバル

今までの課題

現在、購買担当者は、購買プロセスにおいてリスクが最小限のサプライヤを見つけることが難しいということを認識しています。

Supplier Risk ではリスク影響度が計算されませんが、この情報を購買プロセス全体で使用することはできません。

対象ソリューション

- SAP Ariba Supplier Risk
- SAP Ariba APIs
- SAP Ariba Developer Portal

SAP Ariba で問題解決

Risk Exposure API によって、サプライヤの全体的なリスク影響度とカテゴリの影響度を Supplier Risk アプリケーション外で使用できます。これにより、エンドユーザーがリスク影響度を購買決定プロセスの一環として使用できるようになります。

関連情報

この機能は、該当するソリューションを使用しているすべてのお客様に対して自動的に有効になりますが、お客様が設定する必要があります。

主なメリット

Risk Exposure API により、バイヤーは、サプライヤの全体的な影響度情報とカテゴリの影響度情報の更新を定期的に要求できるようになります (バイヤーの選択に基づいて購買プロセスおよび製品と統合可能)。たとえば、サプライヤのオンボーディング、ソーシング、または請求処理で、リスク影響度を Ariba スイートに組み込むことができます。リスク影響度情報は、ほかのデータダウンロードでも役に立つ場合があります。

リスク影響度情報を利用可能にし、統合することで、エンドユーザーが十分な情報に基づいてビジネス上の決定を下せるようになります。

前提条件と制限事項

- この機能を使用するには、SAP Ariba Supplier Risk のライセンスが必要です。
- この API を使用すると、要求ごとにサプライヤ 1 社のみについて、全体的なリスク影響度およびカテゴリリスク影響度を取得することができます。
- Risk Exposure API では、全体的およびカテゴリのリスク影響度レベルの変更は SAP Ariba Supplier Risk にはプッシュされません。
- Risk Exposure API には、リスクインシデントや要因は含まれません。

手順 1: リスクカテゴリおよびリスク影響度の設定

機能の概要

説明: Risk Exposure API

リスクカテゴリ

Risk categories

 Regulatory and legal*,**	 Environmental and social*,**	 Financial*,**	 Operational**
<ul style="list-style-type: none">• Sanctions and watch lists• Bribery and corruption• Legal• IT security• Fraud• Anticompetitive behavior• Corporate crime	<ul style="list-style-type: none">• Human rights• Labor issues• Health and safety• Environmental issues• Conflict minerals• Unethical practice• Decertification• Ethical Practices• Country risk	<ul style="list-style-type: none">• Bankruptcy• Insolvency• Mergers and acquisitions• Divestiture• Credit rating downgrade• Downsizing• Liquidation• Tax issue• Financial data elements	<ul style="list-style-type: none">• Natural disasters and accidents• Plant disruption or shutdown• Labor issues• Product issues• Project delays• Pandemic events

*Optional third-party add – on available for: Regulatory and Legal, Environmental and Financial risk Categories

** Public API is called, Risk Category Information API and includes 15 custom fields across the 4 Risk categories and a specific end point to bring in sanctions/ watchlist screening results which is available for the legal and regulatory risk category

SAP Ariba Supplier Risk では、4 つの包括的なリスクカテゴリをサポートしています。これらのリスクカテゴリを使用して、リスクを識別し、外部データソース別に識別されたリスクを集約することができます。

このリスクカテゴリは、以下のように定義されます。

- **法および規制** - 法的要件の遵守と関連付けをサポートする規制およびコンプライアンスの義務に関連するサプライヤの活動を説明する情報を提供します。
- **環境および社会的** - 環境保護、労働問題、倫理的慣習に関連するサプライヤの行動を説明する情報を提供します。この情報は、サプライヤの慣習を評価する際にユーザーの評価を保護するという点で非常に重要になる場合があります。
- **運営** - サプライヤによって制御されない可能性があるビジネスの日常業務に影響する活動に関連する情報を提供します。
- **財務** - 取引しているサプライヤの財務面の安定性に影響を及ぼす可能性がある処理を説明する情報を提供します。

外部データは、通常設定のプロバイダ、追加の認可サプライヤ、パブリック API など、さまざまなソースに由来します。パブリック API には、15 のカスタムフィールドまたはコンプライアンスデータ (もしくはその両方) を含めることができます。

Supplier Risk によって、サプライヤ情報がセグメント化され、各リスクカテゴリに合わせて調整されます。また、サプライヤの活動を監視したり、サプライヤの状態を最終的に判断したりするために役立つ情報がサプライヤプロファイルに表示されません。

機能の概要

説明: Risk Exposure API

リスク影響度の設定

The screenshot displays the SAP Risk Exposure API configuration interface. It is divided into three main sections:

- 1. Configuration Overview:** Shows the 'Configure risk exposure' option selected in the sidebar. It includes sections for 'Data sources', 'Default sources', 'Licensed sources', and 'Risk level settings'.
- 2. Category weights:** Shows 'Category weight settings' for various risk categories. The 'Contribution to overall risk exposure' is set to 15 for Environmental & social, Regulatory & legal, Operational, and Financial, and 100 for Total (must equal 100). The 'Low risk less than' threshold is set to 30.
- 3. Field configurations:** Shows 'Field configurations' for standard, licensed, and custom fields. The table below summarizes the configurations:

Field source	Field	Risk category	Field type	Field value	Weight	Threshold order	Less than	Greater than	Exposure override
Standard	Number of lawsuits	Regulatory & I	Numeric		Medium	Safer to riskier	5	10	None
Standard	Country risk score	Environmental	Numeric		Low	Riskier to safer	30	70	None
Standard	Number of liens	Regulatory & I	Numeric		High	Safer to riskier	5	7	None
Standard	Years since bankruptcy	Financial	Numeric		Low	Riskier to safer	1	7	None
Standard	UCC filing count	Financial	Numeric		Low	Safer to riskier	5	15	None
Licensed	Supplier Evaluation Risk Rating (SER)	Financial	Text	1,2,3,4,5,6,7,8,9	High				None
Licensed	Supplier Stability Index (SSI)	Financial	Text	0,1,2,3,4,5,6,7,8,9,10	High				None
Licensed	D&B Rating	Financial	Text	1,2,3,4	High				None
Licensed	D&B Paydex	Financial	Numeric		Low	Riskier to safer	1	100	None
Licensed	Financial Stress Score National Percentile	Financial	Numeric		Low	Riskier to safer	1	100	None
Custom	01	Operator	Numeric		High	Safer to r	30	70	None
Custom	02		Numeric		None	Safer to r			None
Custom	03		Numeric		None	Safer to r			None
Custom	04		Numeric		None	Safer to r			None
Custom	05		Numeric		None	Safer to r			None

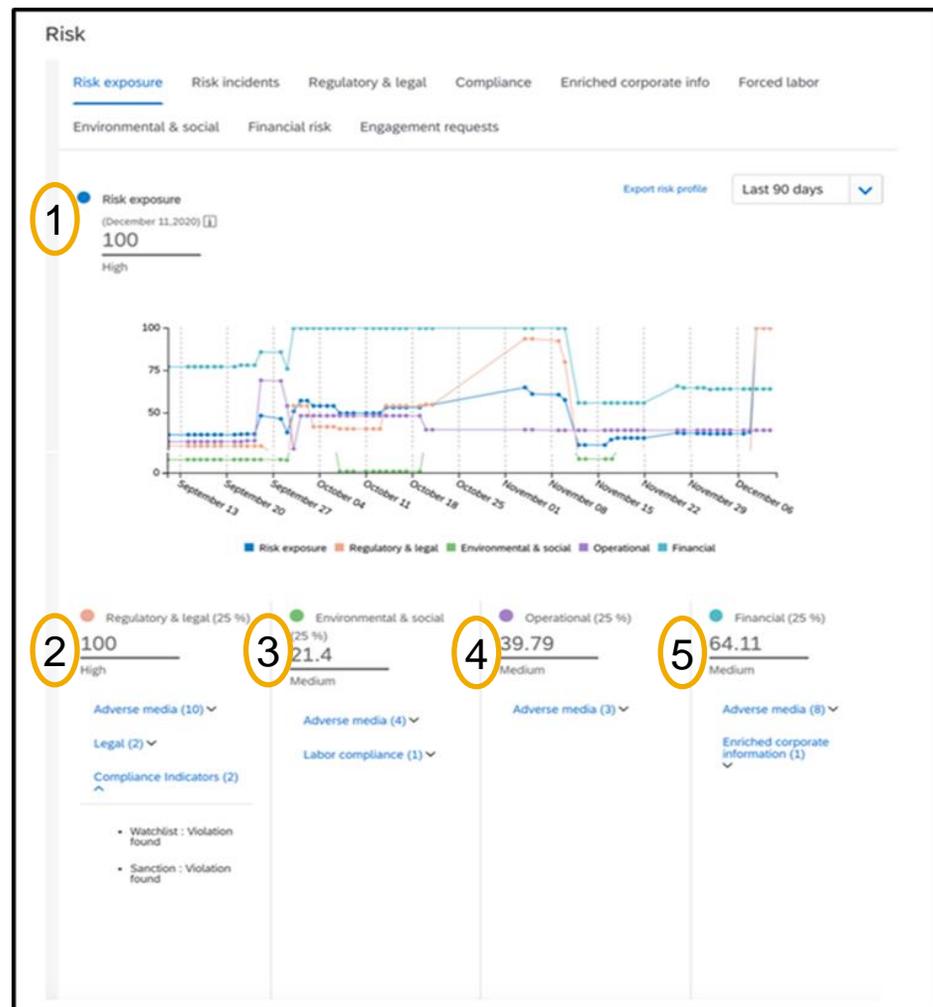
お客様のリスクに関するニーズに基づく優先度に合わせてリスク設定が行われ、有効化されているかについて、サプライヤリスクマネージャが確認することをお勧めします。お客様によっては、既定のリスク設定をそのまま使用できる場合もあります。

1. 使用可能なデータソースがすべて有効化されていることを確認します。
2. カテゴリ加重が希望の配分に設定されます。
3. 有効化されたデータソースについて、フィールド設定が優先設定に設定されます。

適切なリスク設定の設定により、ほかの購買決定および購買プロセスに使用可能なリスク影響度スコアの要因に対する洞察を得ることができます。

機能の概要

説明: Risk Exposure API



- この API には、全体的な影響度情報およびカテゴリの影響度情報が含まれます。
- サプライヤのリスク影響度とは、サプライヤのリスクレベルを指定する値です。
- リスク影響度設定は、Supplier Risk アプリケーションでカスタマイズされ、1 ~ 100 の範囲を基準とします。
- Risk exposure API では、バイヤーの Supplier Risk レルムで設定された設定を使用して、リスク影響度のレベルが提供されます。この API では、1 ~ 4 の範囲を使用します。
- レベルは、以下の数値になります。
 - 4 = 高
 - 3 = 中
 - 2 = 低
 - 1 = 不明
- リスク影響度 4 (高) が最もリスクが高く、影響度 2 (低) は最もリスクが低いことを表します。
- サプライヤのリスク影響度が 1 (不明) として表示されている場合、これは、影響度を計算するための十分な情報がないか、または、現在のリスク影響度を計算するための要因に最新の更新が発生していないことを意味します。

左の例では、このサプライヤの Risk Exposure API 情報が以下のようにになっています。

1. 全体的なリスク影響度は 100/高です。Risk Exposure API により、4/高が示されています。
2. 規制および法は 100 です。Risk Exposure API により、4/高が示されています。
3. 環境および社会的は 21.3/中です。Risk Exposure API により、2/中が示されています。
4. 運営は 39.79/中です。Risk Exposure API により、3/中が示されています。
5. 財務は 64.11/中です。Risk Exposure API により、3/中が示されています。

機能の概要

説明: Risk Exposure API

お客様の実装チームが、以下の推奨設定手順を実行して、この機能を有効化します。

手順 1: リスク設定:

- お客様のリスクに関するニーズに基づく優先度に合わせてリスク設定が行われ、有効化されているかについて、サプライヤリスクマネージャが確認することをお勧めします。お客様によっては、既定のリスク設定をそのまま使用できる場合もあります。
- 使用可能なデータソースがすべて有効化され、カテゴリ加重が希望の配分に設定され、有効化されたデータソースの優先設定に合わせてフィールド設定が設定されていることを確認します。適切なリスク設定の設定により、ほかの購買決定および購買プロセスに使用可能なリスク影響度スコアの要因に対する洞察を得ることができます。

手順 2: サプライヤの識別

- SM ベンダ ID は、Supplier Risk の Risk Exposure API を介してリスク影響度情報を要求するために必要な一意の識別子です。SM ベンダ ID のエクスポートについては、いくつかのオプションが用意されています。
 - Supplier Data API with Pagination を使用して、サプライヤの有効な SM ベンダ ID を取得することができます。
 - [SM 管理] 領域から手動で CSV エクスポート処理を行うと、サプライヤとそれぞれの SM ベンダ ID を識別するためのファイルが作成されます。
 - SLP を使用している場合は、[管理] -> [サプライヤデータのスナップショット] を使用して、すべてのベンダ ID を含むオンボーディングレポートをダウンロードすることもできます。
- Developer Portal (<https://developer.ariba.com/api/>) にログインし、この API にアクセスします。ユーザーは、ログイン手順に従って、既存のアカウントにログインするか、新しいアカウントを作成することができます。
 - **Supplier Data API with Pagination:** この API を使用すると、SAP Ariba Supplier Lifecycle and Performance または SAP Ariba Supplier Information and Performance Management (新しいアーキテクチャ) ソリューションから、サプライヤ名、住所、登録、評価、優先状況、質問事項の詳細などのサプライヤデータを取得するクライアントアプリケーションを作成することができます。
- **手順 3: Risk Exposure API**
 - Developer Portal (<https://developer.ariba.com/api/>) にログインし、この API にアクセスします。ユーザーは、ログイン手順に従って、既存のアカウントにログインするか、新しいアカウントを作成することができます。
 - 手順 2 (SM ベンダ ID) からサプライヤのリスク影響度を要求します。

手順 2: サプライヤの識別

機能の概要

説明: Risk Exposure API

SAP Ariba APIs

User Name

Password

Data center

United States Data Center

Sign In

Forgot password?

Already have a SAP Connect SSO login? [Sign in now](#)

Don't have an account? [Sign up](#)

Build powerful domain specific applications to address your customer needs using a rich environment and user friendly tools offered by SAP Ariba.

外部 API である Supplier Risk の Risk Exposure API を表示するには、このリンク <https://developer.ariba.com/api/> を使用します。

1. お客様は、各自の認証情報を使用してログインすることができます。
2. または、アカウントがない場合は、[Sign up (申し込む)] リンクをクリックします。

機能の概要

説明: Risk Exposure API

Supplier Data API with Pagination: この API を使用すると、SAP Ariba Supplier Lifecycle and Performance または SAP Ariba Supplier Information and Performance Management (新しいアーキテクチャ) ソリューションから、サプライヤ名、住所、登録、評価、優先状況、質問事項の詳細などのサプライヤデータを取得するクライアントアプリケーションを作成することができます。

REST

Supplier Data API With Pagination

Version v4 (Active)

POST /vendorDataRequests/ This API will fetch all the Vendor details

This API will fetch all the vendor details in increments of 500 vendors per page in either JSON or CSV specified in request body. Optionally you can pass on additional filter parameters to get only a subset of vendors. API accepts query param \$skip to get the next page response.

Parameters Try it out

Name	Description
request * required	request

(body) Example Value Model

```
{
  "smVendorIds": [
    "string"
  ],
  "businessUnitList": [
    "string"
  ],
  "categoryList": [
    "string"
  ],
  "outputFormat": "CSV",
  "preferredLevelList": [
    0
  ],
  "qualificationStatusList": [
    "Unknown"
  ],
  "regionList": [
    "string"
  ],
  "registrationStatusList": [
    "Unknown"
  ]
}
```

- SM ベンダ ID は、Risk Exposure API を介してサプライヤレベルのリスク影響度情報を取得/要求するために必要な一意の識別子です。
- サプライヤの SM ベンダ ID を取得するには、Supplier Data API with Pagination を使用します。
- 顧客はサプライヤの識別に SM ベンダ ID を使用する必要があります。SM ベンダ ID のエクスポートについては、いくつかのオプションが用意されています。
 - Supplier Data API with Pagination を使用して、サプライヤの有効な SM ベンダ ID を取得することができます。
 - [SM 管理] 領域から手動で CSV エクスポート処理を行うと、サプライヤとそれぞれの SM ベンダ ID を識別するためのファイルが作成されます。
 - SLP を使用している場合は、[管理] -> [サプライヤデータのスナップショット] を使用して、すべてのベンダ ID を含むオンボーディングレポートをダウンロードすることもできます。

機能の概要

説明: Risk Exposure API

SLP を使用している場合は、[管理] -> [サプライヤーデータのスナップショット] を使用して、すべてのベンダ ID を含むオンボーディングレポートをダウンロードすることができます。

[サプライヤーデータのスナップショット] レポートに関する詳細については、以下の情報リンクにアクセスしてください。

- サプライヤーオンボーディングに関するサプライヤーレポートの実行方法:

<https://help.sap.com/viewer/f081c6c38fb7466a84d746a7998bfe0e/cloud/en-US/00736bc3df2944ad9bed8815cb7df76a.html>

- [サプライヤーオンボーディングの進行状況] レポート参照:

<https://help.sap.com/viewer/f081c6c38fb7466a84d746a7998bfe0e/LATEST/en-US/cb16676b27f04624b9d6cac0fd588924.html>

手順 3: Risk Exposure API

機能の概要

説明: Risk Exposure API

SAP Ariba APIs

User Name

Password

Data center

United States Data Center

Sign In

Forgot password?

Already have a SAP Connect SSO login? [Sign in now](#)

Don't have an account? [Sign up](#)

Build powerful domain specific applications to address your customer needs using a rich environment and user friendly tools offered by SAP Ariba.

外部 API である Supplier Risk の Risk Exposure API を表示するには、このリンク <https://developer.ariba.com/api/> を使用します。

1. お客様は、各自の認証情報を使用してログインすることができます。
2. または、アカウントがない場合は、[Sign up (申し込む)] リンクをクリックします。

機能の概要

説明: Risk Exposure API

The screenshot shows the SAP Ariba APIs developer portal. The top navigation bar includes 'ARIBA NETWORK', 'CATALOG', 'GENERAL', 'NETWORK SUPPLIERS', 'PROCUREMENT', 'STRATEGIC SOURCING', 'SUPPLIER MANAGEMENT', and 'US/AUTOMATION'. The 'SUPPLIER MANAGEMENT' menu item is circled with a yellow '1'. On the left sidebar, under the 'REST' section, the 'Risk Exposure API' item is circled with a yellow '2'. The main content area displays the 'Risk Exposure API' details, including a description, rate limit, release notes, environment details table, and a detailed documentation section with a 'Download API Spec' button.

Environment	Description	Value
Sandbox (Mockbox) URL	Sandbox environment with mock sample data. This is not your test or production environment.	https://openapi.qa.cobalt.ariba.com:8443/api/risk-exposure/v1/sandbox
Production & Test URL	Runtime URL to access your test and production realm environments.	https://openapi.qa.cobalt.ariba.com:8443/api/risk-exposure/v1/prod
OAuth Server URL Prefix	OAuth Server used by the Cloud Business Applications.	https://svcsdev1.mobile.sc1-lab1.ariba.com

お客様は、サインインすると、[Developer (開発者)] 領域に移動します。

1. Ariba Network の [Supplier Management (サプライヤ管理)] - 使用可能な API が表示されます。
2. [Risk Exposure API] - 画面の左側に表示されます。

機能の概要

説明: Risk Exposure API

SAP Ariba APIs

Factory Data API

Risk Exposure API

35AXI6 5F9AFE AH2JIA ARIBA NETWORK CATALOG D5W1C8 ETE80G GENERAL HBJ58E NETWORK SUPPLIERS P4KSBP PROCUREMENT PY6MKA QDIJEF

version v1 (ACTIVE)

Risk Exposure API Risk Exposure API can be used across SAP Ariba applications to share the overall and category risk exposure of suppliers monitored in SAP Ariba Supplier Risk

GET /suppliers/{smVendorId}/exposures Returns json containing the risk scores for the incoming organization.

Models

```
ExposureModel {
  realm string
  smVendorId string
  erpVendorId string
  sourceSystem string
  exposureId integer($int64)
  exposureCalculationDate string
  exposure integer($int32)
  exposureLevel integer($int32)
  riskCategoryExposures [RiskExposureCategoryModel {
    name string
    exposure integer($int32)
    exposureLevel integer($int32)
  }]
  responseTimeStamp string
  exposureConfigurationVersion string
}
```

RiskExposureCategoryModel {...}

/qa.cobalt.ariba.com/api/

この API では、すべてのお客様および SAP Ariba アプリケーションが独自に設定された頻度に基づいてデータを取得する必要があります。

機能の概要

説明: Risk Exposure API

The screenshot displays the SAP API Explorer for the Risk Exposure API. The breadcrumb navigation includes: RIBA NETWORK > CATALOG > GENERAL > NETWORK SUPPLIERS > PROCUREMENT > STRATEGIC SOURCING > SUPPLIER MANAGEMENT > UIAUTOMATION. The 'Schemes' section shows 'HTTPS' selected. The API endpoint is `GET /suppliers/{smVendorId}/exposures` with the description 'Retrieve overall and category risk exposure.' Below this, a text block explains: 'This API fetches the overall and category risk exposure for the given smVendorId. The API accepts the query parameter realm to get the supplier details for the specified realm.' A 'Parameters' section contains a table with the following details:

Name	Description
realm * required string (query)	Identify the requested realm. For example, realm = s4All-3
smVendorId * required string (path)	The supplier you are retrieving risk exposure for.
apiKey * required string (header)	Use any Application Key of an Application(s) you created in developer portal. If you don't have an Application, please create one.

At the bottom, the 'Responses' section shows a 'Response content type' dropdown set to 'application/json'. A 'Code' section is partially visible at the very bottom.

- この処理では、特定の SM ベンダ ID が設定されたサプライヤに関するデータを取得します。
- 以下に、API パラメータの例を示します。

機能の概要

説明: Risk Exposure API

機能の詳細情報

SAP Ariba Developer Portal の使用方法に関するサポートとして、以下のような説明が提供されています。

- ユーザーアカウントを設定し、Developer Portal で使用するアプリケーションを登録する方法
- 利用可能な API を使用するアプリケーションを作成する方法の手順
- OAuth 認証ポータルを組み込む方法

SAP Ariba Developer Portal のヘルプガイドを使用してください。このガイドには、以下のリンクからアクセスできます。

<https://help.sap.com/viewer/b61dd8c7e22c4fe489f191f66b4c48d6/cloud/en-US/8907b13c87e240639be8f546251b1e35.html>

機能の概要

説明: Risk Exposure API

Use this information to troubleshoot your queries to the Risk Exposure API.

Error code	Message	Description
400	The apiKey passed in the request is not valid.	The API key passed in the query headers does not match the API key in the OAuth token.
400	The apiKey is missing in the header.	The API key passed in the query headers is missing. Add a valid API key in the header request.
400	The apiKey provided in the header does not match with the apiKey in the token.	The API key passed in the query header does not match the API key in the token. Change the API key in the query header to match the API key in the token.
400	Invalid or missing request parameters: sm_vendor_id or realm	Your request has an incorrect or missing SM vendor ID or realm. Check to make sure the specified realm name and smVendorID are correct, then resubmit your request.
400	Realm YYY in the request does not match with realms in the token. Available realms in token are 'AAA,BBB,CCC'	The specified realm in your request doesn't match the list of realms from the token. Change the realm in your request to one of the available realms in the token.
400	Realm YYY in the request is not available in SR.	The specified realm in the request isn't available in your supplier risk system.
400	Please check the realm in request. Realm value should not be null or empty.	The specified realm in your request can't be empty. Add the realm in your request.
429	Rate limit error	You have exceeded the maximum permitted query rate. See the developer portal discovery page for this API for the applicable query rates.
500	Error retrieving exposure data	The exposure data could not be retrieved for the supplier. This may be due to connection issues or the server is down. Try again after a while.
504	Gateway Time-out	The server timeout time has been exceeded, possibly due to network traffic or reliability issues. Retry your query.

これは、Risk Exposure API に対するクエリの問題解決に使用できる、予想されるエラーコードの例です。